

自死・自殺問題に向き合う僧侶

「京都いのちの日」にライフウォーク

宗教・宗派を超えて自死・自殺の問題に取り組む「京都いのちの日」宗教者プロジェクト実行委員会が3月1日、「LIFE WALK」のちを想う宗教者の行進」を京都市内で実施した。

京都府の緊急事態宣言が前日に解除されたため、オンラインイベントのみの予定を変更。「感染症の重苦しい空気に苦しむ人も多し。小規模でも町を歩



くことで勇気づけることができれば」と行進を主催。京都在任の実行委員が「あなたのため、オンラインイベントの大切な人が少しでも安らぐように、私たちがそばにいます」などと書いたメッセージボードを掲げ

ながら、京都市下京区の本願寺から中京区のカフェまでの約3キロを歩いた(写真)。オンラインではトークイベントを行い、龍谷大学准教授の野呂靖さんとリメンバー名古屋自死遺族代表幹事の野村清治さんが語り合った。

この取り組みは、自死・自殺問題への関心や理解を深めようと京都府が2016年に「京都いのちの日」(3月1日)を定めたことを受けて同年から実施しており、6回目。本願寺派総合研究所が共催している。